

関田山脈を利用した信越トレイルの整備・活用について

北信森林管理署 流域管理調整官 ○小林 常正
NPO法人 信越トレイルクラブ ○高野 賢一

要 旨

信越トレイルは国有林部分を「関田トレイル」と位置付け、国有林を管理する中部森林管理局北信森林管理署・関東森林管理局上越森林管理署及び事業の実施主体であるNPO法人「信越トレイルクラブ」が整備活動について協定を結び整備を進めて来ました(図-2, 写真-1)。

この度、当初目的の最終地点(天水山標高1,088m)までの整備が完了したことにより、平成20年9月には全線開通記念イベントが開催され本格的な運用段階に入りました(図-1)。

これまでの整備の実施に当たっては、ほとんどの作業がボランティアの手作業によって行われ、参加者の信越トレイルへの情熱がうかがわれました。

整備が一区切りついたことにより、これまでの経緯や事業の実施結果について紹介します。



図-1 全線開通ポスター



図-2 信越トレイル位置図



写真-1 協定締結式典

はじめに

長野・新潟県境に連なる関田山脈は標高1,000m前後の連山で、古くから交易ルートとして両県の集落毎に峠道が作られ、物流や文化交流など重要な役割を担ってきました。

それら峠道も明治以降、鉄道の開通や街道の整備により、次第に衰退して人々から忘れ去られようとしていました（写真－2）。



写真－2 荒れた峠道

近年のトレッキングブームの中、歩くことの大切さ、楽しさが再認識され、歩くことに主眼を置いたロングトレイル整備の気運が地元の人々から高まってきました。平成16年1月、それまで個々で活動して来た団体が、同じ理念の基に、NPO法人「信越トレイルクラブ」を設立し、歴史ある旧道・古道を復元して地元の要望に応え、併せて地域連携や活性化を目指して活動を始めました（写真－3）。



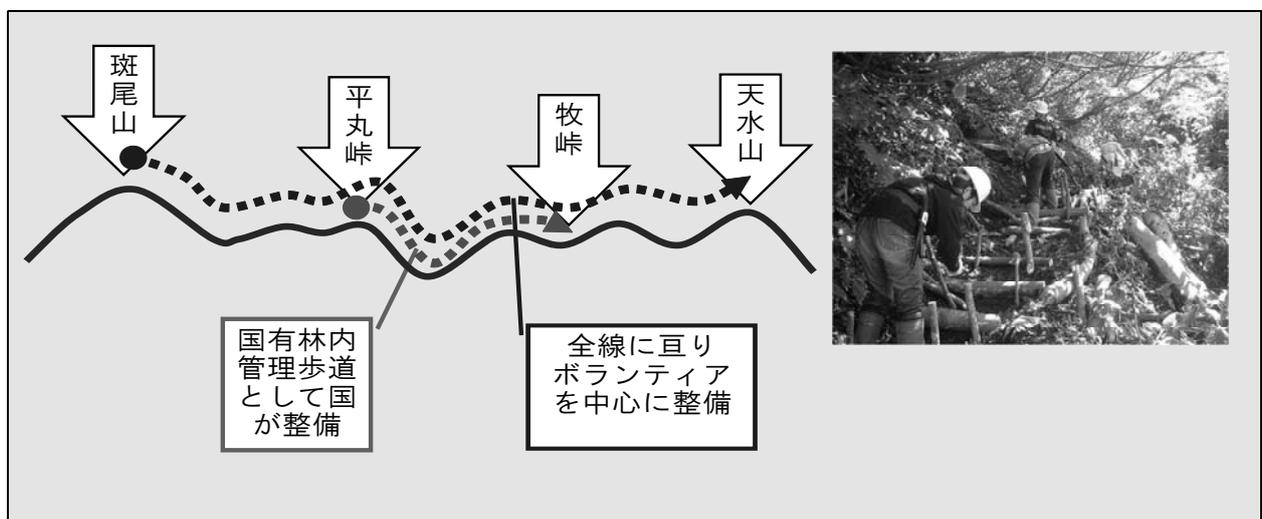
写真-3 トレイルクラブ設立総会

1 トレイルの整備、自然環境調査

まず、信越トレイルの起点である斑尾山から大平峰国有林を経て、妙高市境の平丸峠までは、スキーに代わる夏場のフィールド整備の先駆者である、斑尾地区の有志が主体で整備を行いました。

平丸峠から上越市境の牧峠までは、国有林の管理用として作設された歩道を国の事業として、再整備して平成17年7月に部分運用を開始しました。

牧峠から最終目的地の天水山を経て、新潟県十日町市の林道天水越線までは、平成16年からこれまでに延べ2,000名のボランティアにより整備が行われました（図－3）。



図－3 整備の分担状況（模式図）

整備と平行してルートに沿って生育する動植物の分布状況、保護対策等を専門家の協力を仰ぎながら実施しました。自然環境調査に700名ものボランティアの協力を得て貴重な情報を収集することができました（図-4）。



図-4 自然環境調査の実施状況と分布図

2 利用者サービスの構築

トレイルの利用を促進するためには、利用者に対する充実したサービスの構築が必要となります。このため、利用者と地域を結び付ける重要な役割として、独自にガイドを養成し、利用者に対して安全で楽しいトレッキングを提供しています（図-6）。

また、インターネットを利用して、最新のトレイル情報やイベント情報に加えアクセス方法、マイカー回送サービスの紹介、オフィシャルマップの販売、さらには各地点での携帯電話の電波状況など、利便性を高める情報の提供をしています（図-5）。



図-5 携帯電話の受信情報



- ① 信越トレイルクラブの活動の趣旨・内容を十分理解している正会員
- ② 日本赤十字社の救急法一般講習修了者
- ③ 信越トレイルに関わる自然等の知識を有している など

図-6 登録ガイドの養成・派遣サービス

3 これまでの成果

信越トレイル全線開通は、周辺地域やメディアから注目を浴び、利用者は近隣、大都市圏を問わず飛躍的に増加しており、地域振興に寄与しています。

利用者からは、自然環境の素晴らしさに加え、峠道を介した歴史や、文化を知り、里山の魅力を改めて感じたとの意見が寄せられ、信越トレイルの果たす役割を実感しています。

また、学校教育や教育委員会による環境学習への利用の広がりを見せており、さらに、両県の地域振興部局においても、利用促進を目的とした連絡会が構成されるなど、一層の推進体制が構築されつつあります（写真－4，5）。



写真－4 小学生を対象とした森林教室

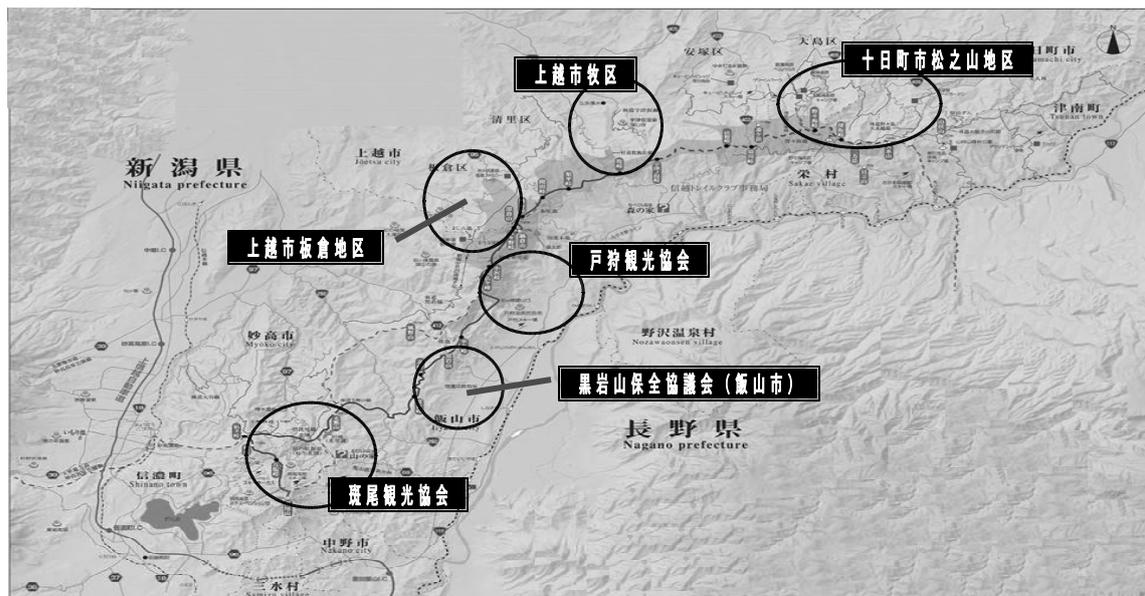


写真－5 振興局での会議

おわりに

信越トレイルクラブでは「人と人の交流を通じた地域の活性化」をガイドラインとして、地域連携によるトレイルの整備や、活用を通じて地域活性化に取り組んでいます。

また、それぞれの地域ごとに地区住民によるトレイルの整備がなされつつあります（図－7）。



図－7 地区別維持連携役割図（案）

反面、全線開通後の維持管理が大きな課題でもあり、賛同者を得るための情報発信を行うと共に、地域住民や関係団体が連携を深めて永続的協力体制を構築することが必要と考えています。